【樹木の部屋】

カリン（バラ科カリン属　Pseudocydonia sinensis）

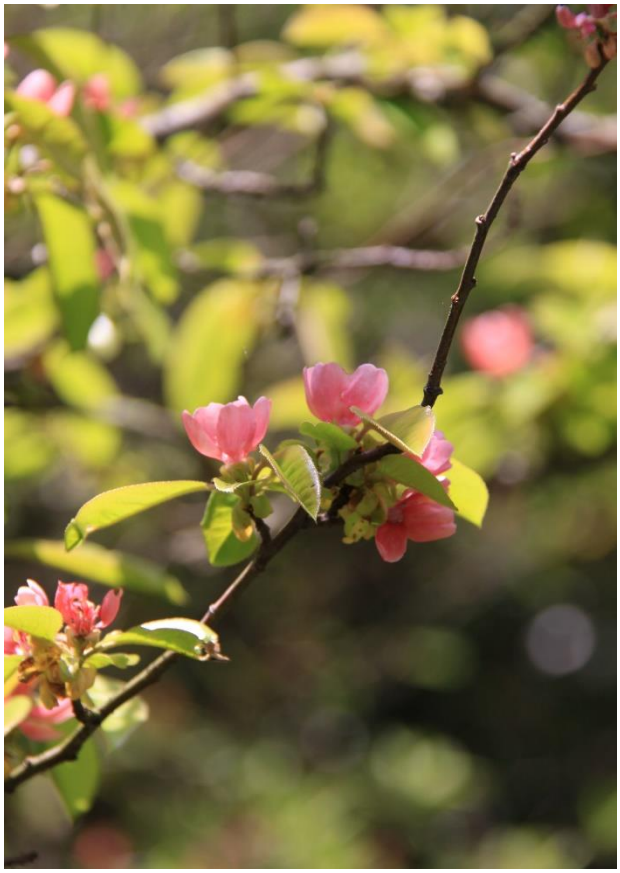
和名：カリン(榠樝、花梨)

別名：安蘭樹（アンランジュ)、木瓜（モッカ)、食わず梨（クワズナシ)

英名：Chinese quince

バラ目　落葉高木　原産地：中国

花言葉　豊麗、唯一の恋　花の色：　白、ピンク



←↓　写真-１、２　カリンの花
撮影日：2015 年 02 月 25 日
撮影場所:善峰寺(京都市西京区)にて
撮影者：M　さん

京都市西部にある善峰寺を訪れた際、境内で、可憐に咲いていました。果実を目にする機会は多いのですが、花を見かけたのは初めてかも・・。

平安時代に弘法大師が中国から苗を持ち帰ったことから日本に伝わったとされています。カリンの属名　Pseudocydonia　は偽のマルメロを意味するそうです。

10～11 月に実るカリンの実は、黄色く甘い香りがします。ただ、生のままだ

と固くて渋いため、焼酎に漬け込んだり、砂糖やハチミツはちみつに漬けたりして味わわれている方も多いと思います。また、中国では、約 2,000 年前から「木瓜（モッカ）」という咳止めや鎮痛作用のある漢方薬としても利用されてきたそうです。花期は 3 月～5 月。五弁の花を咲かせます。

カリンの実には、ビタミン C やポリフェノール、ベンズアルデヒドといった様々な成分が含まれているそうで、ビタミン C には強い抗酸化作用や副腎皮質ホルモンの合成を助ける働きがあります。これによって、免疫力の向上やストレスの緩和、美肌効果などが期待できるそうです。さらにリンゴ酸やクエン酸によって疲労も回復されるなど、体によい効果をたくさんもたらしてくれるそうです。

＜ちょっと一言＞

・ボケ属で記載されている書籍もあります。

・カリンとマルメロ、両者の果実は、よく似ていますが・・。カリンの樹皮は剥がれ落ち、葉の縁に細鋸歯があるので容易に見分けられます。

・マメ科にもカリン（花梨）がありますが、和名は同じでも全くの別種（近縁でもない）です。